



~建築は、建てることより育てること~

vol.215

令和7年1月号

ガ・よろこぶ

賀

祝う、喜び
寿(ことほ)ぐ

MIZUNO "旬感"だより


しゅんかん

今年の言葉

間

賀正

空間、時間、人との間を
大切に暮らす

令和7年 元旦 

明けましておめでとうございます。

●空間の間

農作業は光や風や水の通り道、隙間を作ることが大切といえます。空間的な「ま」は隙間、苗の間引き、苗と苗の間の「間」。建築空間でもいえることだと思います。

「間」を考え深めることが空間の広がりとなります。

●時間の間

「間」の取り方で、間が抜けたり間が悪くなってしまう。どこに心を置くのかを「間」ととらえ、時を大切にしたいものです。

●人と人との間

人との距離感、程よい間が大切ですね。人と建築空間の間も同じだと思います。「間」を上手にとり、想像力を働かせ、目に見えないものを感じ、作品に提案していきたいものです。

今年もよろしくお願い致します。

創業 **75** 周年、記念プレゼント 第2弾!!

“ミズノオリジナル絵馬の絵付け体験”

(参加費無料・詳細は裏面をご覧ください。)



水野博旨

冬季休業のお知らせ

1月6日(月)までお休みさせていただきます。

7日(火) 午前中は熱田神宮垣内参拝のため、午後から通常営業となります。休業期間中にいただいたお問い合わせについては、休業期間後にお返事させていただきます。

この旬感だよりは
ホームページでも
ご覧いただけます。

株式会社 **ミズノ** ホームページ→

www.mizuno1950.co.jp



空間設計 **ミズノ** ホームページ→

www.mizuno-architects.com



空間設計 **ミズノ** のデザイン記録 vol.92



研修旅行で訪れた李禹煥美術館の紹介。世界的な現代美術家・李禹煥の美術館として、安藤忠雄の設計で海と山に囲まれたなだらかな谷あい計画されました。コンクリートの建物と直島の豊かな自然、李禹煥のミニマルで力強い作品が調和した美術館です。館内には自然光が柔らかく差し込み、刻々と変わる光と影が空間全体をアートの一部にし、李禹煥の静謐な作品を際立たせているようです。瀬戸内海に向かって広がる屋外の展示スペースには高さ25mもあるダイナミックな作品もあり、自然の中でゆっくりと美術鑑賞をできるスポットでした。 スケッチ・文：水野真宏

あいちたてもの博覧会

名古屋陶磁器会館
~建物解説~

2024年11月24日(日)に登録有形文化財の名古屋陶磁器会館で行われた「あいちたてもの博覧会」で、株式会社ミズノから水野真宏がガイドを務めました。今後とも文化発進活動に力を入れていきます。



伝統再築士による

古民家&日本建築講座

伝統再築士とは…次世代に引継ぎたい文化的価値の高い木造物を残すための専門家

女木島を守る大きな石垣「オーテ」



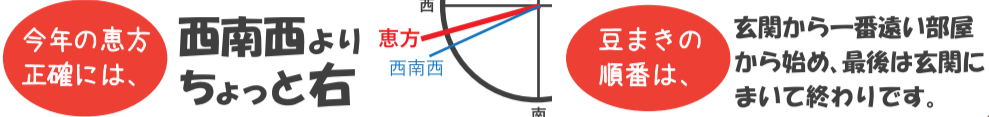
先日の研修旅行で瀬戸内海に浮かぶ、かつて鬼が住んだと言われる島「女木島」に行きました。そこでフェリーから降り着陸した時、海沿いの平屋の民家を隠すようにそびえたつ石垣が目に入り、ガイドさんがそれを「オーテ」と説明してくれました。女木島では北西に吹く季節風が山に当たり、向きを変えて海しぶぎと共に吹き降ろす「オトシ」と呼ばれる冬の厳しい風があり、オーテはその風から民家を守ってきたそうです。オーテにはきれいに割りつけられたものや乱雑なものがあり、それらが街の景観を作っています。今は港も整備され、オトシは改善されましたが、古くから伝わる住人の知恵が機能をなくしても島のシンボルとして現存し続けているのは美しいですね。



今年の立春(旧暦の新年)は2月3日なので、

節分は**2月2日**ですよ!

節分とは、“疫病や災いをもたらす鬼を、魔除け効果のある穀物で追い払い新しい年を迎える”という立春前日の行事です。立春の日付は年により異なり、2月3日の年もあれば5日の年もあります。立春を始まりとする二十四節気は、日にちで決められているのではなく、国立天文台による太陽がある地点を通過する瞬間の日にちで決められます。立春でいうと“太陽が黄経315度を通過する瞬間”で今年は2月3日23時59分が立春の瞬間なのです。



豆まきの順番は、玄関から一番遠い部屋から始め、最後は玄関にまいて終わりです。

株式会社ミズノは、1950年4月1日に【水野製作所】として創業しました。



創業者の先代は昭和4年に六人兄弟(三男三女)の五番目で米屋を営む商家に生まれました。

小さな時は友達と遊ぶよりも、一日中大工さんの作業している所を見ているのが好きだったそうです。その気持ちが“家具職人”へと繋がりと、【水野製作所】創業へと至った次第です。米屋の商いを手伝う身内たちは、皆で“職人はお金に困るだろう”と随分反対したそうです。

その通り、創業当時は大変に苦労したと聞いています。両親の苦労は、その時代を生き残った人達も同じだったと思います。

～1950年はこんな出来事がありました～

・聖徳太子の1000円札が発行・テレビの試験放送が開始・プロ野球が開始・警察にパトカーが導入・イギリス映画『赤い靴』の影響で赤い靴とバレエが大流行・『東京キッド』(美空ひばり)が大ヒット

創業当時に先代が使用していた自転車は、水野製作所の表札と共にミズノの社宝として本社事務所の吉方に飾っています。



創業**75**周年、記念プレゼント第2弾!!
参加無料・お申込み不要

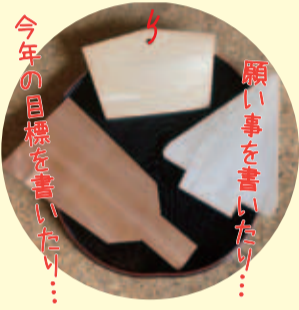
“ミズノオリジナル絵馬の絵付け体験”

講師：絵画造形教室主宰 薬師寺智子さん

日時：2025年**2月15日** 土曜日
午前の部：10:00～12:00
午後の部：13:30～15:30

場所：株式会社ミズノ1階

絵を3種ほどご用意しますが、ご自由に描いて頂いてもOKです。お子様からご年配の方まで、どなたでも是非ご参加ください!



株式会社 **ミズノ** 研修旅行

2024年12月3.4日に株式会社ミズノで、瀬戸内海に浮かぶ直島、男木島、女木島を巡る研修旅行に行ってきました。建築、自然、芸術に触れた良い旅でした。



瀬戸内海を渡るフェリー



地中美術館(直島)



リーウファン 李禹煥美術館(直島)



鬼ヶ島大洞窟(女木島)



南瓜(直島)



歩く方舟(女木島)



男木島の魂(男木島)



男木島パビリオン(男木島)



見習い建築士の
BOOKS & CINEMAS

■建築スタディ発想の方法 / 編著：坂牛卓



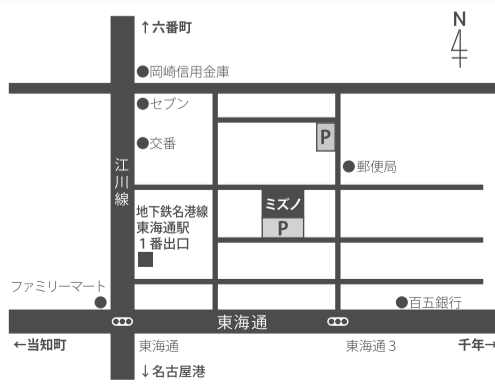
今回紹介するのは、日本人の有名な建築家50人の設計過程が綴られていて、模型やスケッチの写真を交えながら建物のデザインが完成するまでの思考の軌跡を見ることができる本です。この本の作者は建築家の思考のタイプを大きく「考え方に気づく」「物、空間を練る」「社会、環境を練る」の3つ、細かく方法・関係性・構造・空間・表皮・ディテール・社会・場所・環境の9つに分けています。多くの建築家はすべてのタイプを考えていると思いますが、どこに重きを置くかで考え方が変わるし、スタディの始め方や模型の作り方、スケッチの書き方で建物は変化していき多様な建築物が生まれたと実感し、面白かったです。また、日常生活をしている中でも思考し続け、思い浮かんだ時にすぐ書き出すことを多くの建築家が共通して行っていて、実践していると思いました。建築家の思考のプロセスを知ることによって、その建物の魅力は倍増すると思います。みなさんもぜひ手に取って見てはいかがでしょうか。



住宅・店舗の設計・施工・監理
株式会社 **ミズノ**

〒455-0001
名古屋市港区七番町5丁目3番地
Tel: 052-652-6886
Fax: 052-661-0653
Web: www.mizuno1950.co.jp
Mail: mizuno@mizuno1950.co.jp

☎0120-387-312

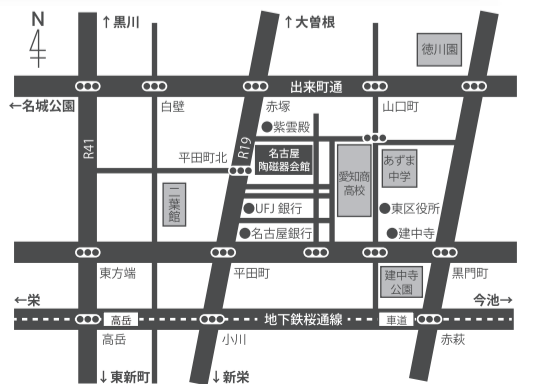


・駐車場は社屋南側と郵便局側にございます。
・市営地下鉄「東海通駅」下車、1番出口より徒歩3分

一級建築士事務所
空間設計 **ミズノ**

〒461-0025
名古屋市東区徳川一丁目10番3号
名古屋陶磁器会館1階103号室
2階204号室
Tel: 052-982-8316
Fax: 052-982-8357

住宅設計・デザインリフォーム・商店設計
コンバージョン(用途変更)・など



・最寄りの駅 市営地下鉄 桜通線 高岳駅(徒歩20分)
・最寄りのバス停 市バス 赤塚バス停・赤塚白壁バス停